

## 東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満用)

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form (for programs from one semester to a year)

記入日/Date: 2020/5/21

■ID: A19141

■参加プログラム/Program: 全学交換留学

■プログラム情報/Program info.: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html>

■派遣先大学/Host university: インドネシア大学

■留学期間/Program period: 1/19/2020 ~ 4/10/2020 (MM/DD/YYYY)

■東京大学での所属学部・研究科等/Faculty/Graduate School at UTokyo: 教養学部教養学科地域文化研究分科アジア・日本研究コース

■学年(留学開始時)/Year at the time of study abroad: 学部3年

■留学を決めるまでの経緯/How and why did you decide to study abroad?:

一度短期プログラムでインドネシア大学を訪問したことがあった。短期の滞在では得られる気付きに限界があり、より長期の滞在を通して、悪い面・見たくない面も含めて多面的にインドネシアを理解したいというのが留学を決意した最大の理由である。加えて、インドネシア人学生との交流を通して、自分のインドネシア観をより磨いていきたいというのも大きな動機であった。前学期の留学において、人との交流がもっとも充実した点であり、そこから得るものこそが最も大きかったためである。一方で、留学することで卒業を一年延ばさねばならないことは確実であったが、その点についてためらいはなかったと思う。

留学の時期について/About the timing of the study abroad period

■留学前の本学での修学状況/Academic status BEFORE the program:

2019年/Academic year / 学部3年/University year / A2学期まで履修/Completed semester

■留学中の学籍/Academic Status during the studying abroad/program:

留学

■留学後の本学での修学状況/Academic status ON RETURN:

2020年/Academic year / 学部4年/University year / S1学期から履修開始/Semester

■留学にあたってこの時期を選んだ理由/Reason for choosing this period to study abroad:

これまで留学を経験された人は、おおむねこの時期に留学をされていたため。

学習・研究について/About study and research

■留学先で履修した授業科目と単位数の詳細/Subjects taken and credits earned:

Macroeconomics/3

Indonesian Economy/3

Indonesian Economy and Business/3

Organizational Behavior/2

■留学中の学習・研究の概要/Overview of the study/research during study abroad:

経済学部のインターナショナルコースに所属していた。コースに所属している学生の大半はインドネシア人であるものの、授業はすべて英語で開講されていた(教授の大半もインドネシア人)。通常コースに比べて授業料はかなり高めに設定されているようで、経済的に余裕のある層が通っているという印象であった。(ちなみに、大学全体として見たとき、交換留学生の参加できる授業の種類はかなり限られているようである。インドネシア語をある程度習得し、インドネシア語で開講される授業に参加したい場合は、人文学部で留学生向けに開講されている授業の中から選択するのが普通のようなものである。現地学生に混じって通常の授業を受けられるかどうかは不明である。可能であったとしても、授業を提供している学部担当者との交渉が必要であると思われる。また、英語で開講される授業に参加したい場合は、取りうる授業の選択肢をある程度確保するという観点から、インターナショナルコースのある学部に留学するのが望ましいと思われる。文系学部で言うと、インターナショナルコースを設置しているのは経済学部のみである。例えば、政治社会学部では、英語で開講されている授業の数が相当限られている。経済よりも政治に関心がある、英語で授業を取りたいとなると選択肢はかなり限定的になるとと思われる。)授業としては、インドネシア経済に関する授業を2コマ、マクロ経済、組織行動論に関わる授業を1コマずつ履修していた(ちなみに、経済学という学問の特質を反映してか、各授業を履修する際、その前提となる授業をすでに所属大学で履修したことを示す書類の提出を求められた。例えば、インドネシア経済についての授業を履修する際、中級程度のミクロ経済についての授業が既習であることを求められた。大学担当者には、前期課程の際に文科二類の学生が、準必修として履修する経済の授業がこの授業に相当するものであると説明した。もっとも、授業内容が具体的に何であったかなど根掘り葉掘りと詰問された訳ではないので、必ずしも前提となる授業をすでに履修していなくても、希望する授業に参加できる可能性は十分にあり、交渉の余地はあるだろう。また、一般に履修登録後に履修の変更は認められていないが、交換留学生は特例として第一週目のみ履修の変更が可能になっている。)。授業時間として1コマあたり2時間半が確保されているが、時間通りに進むことはほぼない。20・30分ほど遅れて始まるのが普通であり、授業時間終了前に終わることもしばしばである。授業によってはTAによるチュートリアルクラスが開講されることもあり、授業の理解を助けてくれる(参加は任意)。授業は1クラス当たり30人ほどで構成されており、授業中は積極的に発言することが求められる。留学生の数がそこまで多い訳ではなく、クラスに日本人は一人のみという状況もよくあり、教授に発言を促されることがよくあった。例えば、インドネシアでの事例の説明を受け、日本では同じような事例で状況はどうなっているのかと聞かれたり、国際比較のグラフが提示され、日本についてのデータの背景にある事情の説明を求められるといった具合であり、日本やその経済に対する関心・評価の高さを思い知らされた。ただ、あまりうまく議論できなかったような気がする。やはり、場数不足が原因であったと思う。思わぬ形で留学が中断したこともあり、この点では不完全燃焼という感じが残る。

■留学先での1学期あたりの履修科目数と履修単位数/Number of subjects registered per semester and credits earned per semester:

4~6科目/Subjects / 11~20単位/credits

■1週間あたりの学習・研究に費やした時間/Hours spent for study/research per week:

6~10時間 時間/hours

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの/Activities you took part in other than study/research:

取り組んでいない

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由/Details of the activities you chose, or the reason why you did not take part in any activity other than study/research:

現地の友人を十分に作れなかったというのが大きい。オープンに出ている情報が少なく、人伝えに聞く情

報が大切になると思うのだが、あまり十分な人的関係を現地学生と構築することができなかった。

■週末や長期休暇の過ごし方/How did you spend the weekends and vacations? :

レバラン前後に大型連休がある予定だったのだが、途中で帰国をすることになったため、経験することができなかった。途中帰国にいたる経緯を少し述べたい。3月に入るまで、インドネシアはコロナと全く無縁であった。当初は感染者ゼロという発表が続いており、誤解を恐れずに言えば「対岸の火事」という感じであった。ただ、感染者が一人、また一人と増える中、危機をどんどん身近に感じるようになった。ある日、大学が突然各学生に帰省命令を出し、今学期の授業をすべてオンラインに切り替えるとの発表を行った。大学当局が何らコロナに対して積極的な対策をすることなくいきなり発表をしたように見受けられなかったので、正直かなりビックリした。学生が各自帰省をするとすると、人的な交流が図れなくなることが予想された。これが、最大の帰国を決断した理由だった。やはり不完全燃焼に終わってしまったという感じは否めない。

派遣先大学の環境について/About environment at the host institution

■設備/Facilities :

大学としてのみならず、各学部にも図書館がある。ただ、文献の多くがオンラインで入手可能な態勢が整えられており、図書を借りる機会はなかった。閉館時間は比較的早く、遅くとも7時だったと記憶している。各建物内でWifiを使用可能であるが、通信はそれほど安定していない。

■サポート体制/Support for students :

すでに書いたように、各留学生に現地学生のボランティアが buddy として様々な補助をしてくれる。この buddy なしに様々なトラブルを解決できることは到底できなかったと思う。留学生は一月中旬にインドネシアに到着していることが要請されていたのだが、学事暦上それが不可能であったため、自分は遅れて到着することになった。畢竟、空港への迎え・住居探し・学内手続きなどあらゆる面で個別対応が必要になったのだが、そのすべてでサポートをしてもらった。非常に感謝している。

プログラム期間中の生活について/About life during the program

■宿泊先の種類/Type of accommodation :

アパートなどの賃貸

■宿泊先の様子、どのように見つけたか/Environment around the accommodation and how did you find it :

大学側でアパートを斡旋してくれる。ただ、このアパートは薬物・売春の温床として名が通っており、あまり環境の良い場所ではない。なぜそのようなところが斡旋されるのか不思議でさえある。buddy(留学生の手助けをしてくれるインドネシア大学の学生ボランティア。一人の留学生につき一人が付いてくれる。)に助けをもらって自力で住居を探すことが望ましい。キャンパスの周りには kos と呼ばれる住居もある。一軒家ほどの大きさの建物の中にたくさんのシングルルームがあり、現地学生が多く住んでいる。ただ、春学期から留学を開始するとなると、条件の良い kos はすでに満室となっていることが多く、自分も kos への滞在は断念することとなった。結局、自分はキャンパスの裏側にあるアパートに住むことになった。去年竣工したばかりでありながら、1ヶ月200万ルピア(水道代・電気代は別で、合わせて30万ルピアほどかかる)と比較的安価であった。Wifiと温水シャワーも完備されており、良い物件を見つけたと思った。ところが、月末に、アパート側が別の団体と自分の入居前にすでに契約を結んでいたことが発覚し、部屋からの退去を言い渡された。自分にとっては青天の霹靂であったが、別な部屋またはアパートを探すしかない。結局、別なアパートに移るとなるとイミグレーション上の問題が発生することから、別なより値段の高い部屋に移ること

なった。そちらは、Wifi と温水シャワーなしで 240 万ルピアであった。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等/Climate、environment around the institution、transportation、food、etc.:

自分の滞在した時期は、雨季であった。ジャカルタ市内では、洪水の被害を大きく受ける地域もあったようで、道路が冠水する様子をしばしば見かけた。キャンパスはジャカルタ市内から電車で 40 分ほどに位置する Depok というところに位置する。ジャカルタ都市圏のベットタウンという様相であり、キャンパス外は静かで落ち着いた場所とは言えないだろう。移動については、キャンパス内には学部の建物同士を結ぶ無料の巡回バスがある。現地の学生は、バイクまたは車で通学する人が多いようであった。自分も、キャンパスから学部の建物まで歩けない距離ではないのだが、朝の通学時には結局 Grab、Gojek といったバイクタクシーを使うことが多かった。公共交通機関が充実しておらず、バイクタクシーへの依存度は全般的にかなり高かった。ただ、自分も何度か経験があるのだが、スマホの充電がないとそもそもバイクを呼び出せない。注意が必要である。食事については、自炊はほとんどせず、学部内の食堂で取ることが多かった。種類も充実しており、1 食 1 万 5000 千ルピアほどと手頃である。キャンパスの周りにもワルンと呼ばれる簡単な食堂が多々あり、ご飯の上におかずを数品選んで適当によそってもらって 2 万ルピアほどである。清潔さを求めるならモール内のレストランだろうが、自分には高く不味いだけだった。GrabFood や GoFood といったデリバリーサービスも日本とは比較にならないほど充実している。

■お金の管理方法、現地の通貨事情/Management of money and situation about local economy:

口座の開設はきわめて煩雑であり、断念した。一応、そこそこレートのいい両替所が近所のモールにある。やはりクレジットカードによるキャッシングが一般的だろうが、Depok の ATM では原則として一回 100 万ルピアしか引き出せない。そのたびに手数料がかかるので、ジャカルタ市内の ATM でキャッシングするか、MayBank など引き出し可能額が大きい銀行を選んでいった。GoPay や OVO などの電子マネーも普及しており便利であるが、日本発行のクレジットカードから直接入金することはできない。

■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理/Aspects of risk and safety management、local health care system、and any actions taken to maintain your health:

治安は良好であると思うが、電灯等があまりなく、夜間に暗いところを一人で外出するのは危険であろう。ジャカルタ市内に行けば日本語対応可能な診療所がたくさんあるので、体調を崩しても過剰に心配することはないと思う。自分は、あまり胃腸が強くないということもあり、到着後 1 週間はずねに下痢に悩まされていた。ただ、これを回避する術はなかったと思う。現地のものをどんどん食べて体を慣らしていく以外に方法はなかったであろう。一方で、腸チフスで入院した友人もいるので、必要以上の冒険は避けたい。自分も、なるべく客がある程度いて、味と品質にある程度信頼の持てる店を選んで入店するようにしていた。

留学前の準備・手続きについて/About preparations and procedures before studying abroad

■留学先への入学手続き/Procedures for enrollment required by the host institution:

自分は前学期別な大学に留学することが決まっており、準備に十分な時間を確保できなかったため、国際交流課の方にどのような書類の提出が必要なのかインドネシア大学側に早めに照会していただいた。欧米の大学からすれば普通だろうが、異なる 2 人の先生に推薦状を書いていただく必要がある。自分の場合、かなり慌ただしかったが、ある程度時間があれば問題なく用意できると思う。

■ビザの手続き/Procedures to obtain visas:

まず日本の大使館でビザの申請をする必要がある(この際はさほど多くの書類を用意する必要はなかった

と思う)。その後、現地の移民局で KITAS と呼ばれる外国人向けの滞在許可証を申請しなければならないのだが、この手続きが極めて煩雑であった。大学の担当部署で書類を申請・受領し、地域の里長的な方から署名をもらう作業を 3 回行った後に、移民局で申請、数日後に受領という流れである。(ちなみに、その後、移民局はハッキングでデータをすべて喪失したようであり、そうした点でも油断ならない。)日本でビザを申請する際にお金を払うのだが、現地の移民局でも再度ほぼ同額のお金を払うことを求められる。ビザ取得には想像以上に金銭・時間の負担が必要であった。また、帰国の際も手続きが必要なのだが、今回は緊急事態ということで免除してもらった。非常に柔軟な対応である。ビザに限らず、インドネシアではともかく書類の作成・提出を求められる機会が多かった。提出する方も受領する方も何のためにその書類が必要なのか分からない場合でさえやり取りがなされるので、非常にエネルギーが取られる。

■医療関係の準備/Preparations or actions taken to maintain your health :

大学から指定の様式の提出を求められる。駒場の保健センターで十分に対応可能なものであった。風土病対策で予防接種も行ったが、すべて駒場の保健センターで相談に乗ってもらった。外部の医療機関にかかるよりも安価であったと思う。

■保険関係の準備/Preparations/procedures for insurance :

国際交流課の方からメールが送られてくるので、その指示に従って手続きを行う。保険会社とのやり取りの際、一部のメールが迷惑メールのフォルダに振り分けられた(Gmail)。

■東京大学の所属学部・研究科(教育部)での手続き/Procedures required by faculties or graduate schools at UTokyo :

留学許可願を学部の方に提出した。その際、コース主任・分科主任の方の印鑑が必要であった。また、言うまでもないだろうが、コース主任や卒論指導をお願いする予定の教員に今後の留学の予定・卒業予定などを説明し、理解を求めた。

■語学関係の準備/Language preparation :

2 年生のときに第三外国語としてインドネシア語を学習し、辞書を引きながらであれば簡単な文章が読めるというレベルであった。ただ、やはり週 1・2 コマ授業を取る程度ではインプット量が不十分であったような気がする。最低限の意思疎通、コミュニケーションはできるが、インドネシアの生活で不可避免的に生ずる様々なトラブルをすべて自力で乗り越えられるだけのインドネシア語力はなかった。まして、スモールトークをすべてインドネシア語でこなせるようなレベルではなかった。もちろん、インドネシア大学の学生は優秀なので英語で会話をしてくれるが、現地語を用いて交流するためには、単語も含めて事前に一定の量のインプットをしておく必要があった(もちろん、現地で語学学校に通うことも可能だが、インドネシア大学ではなかなか難しかった。大学の周りにそうした語学学校は存在せず、大学付帯の語学学校の授業を取る場合、通常の授業は履修できなくなる。))。

費用・奨学金に関すること/About expenses and scholarships to participate in studying abroad

■参加するために要した費用/Expenses of participation :

航空費/Airfare	80,000 円/JPY
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)/Payment to host institution (tuition, facilities fee, etc.)	0 円/JPY
教科書代・書籍代/Textbook / Book	0 円/JPY
海外留学保険料(東京大学指定のもの)/Overseas travel insurance fee (designated by UTokyo)	20,000 円/JPY
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)/Insurance	0 円/JPY

and/or social security (required by host institution/region/country)	
■その他、補足等/Additional comments :	
ビザ取得費用(6ヶ月間有効のKITASを取得した)日本のインドネシア大使館で約15,000円を支払い、現地の移民局で再度15,000円ほど支払う必要がある。	

■留学先での毎月の生活費/Monthly cost of living during the study abroad period :	
家賃/Rent	16,000 円/JPY
食費/Food	15,000 円/JPY
交通費/Transportation	5,000 円/JPY
娯楽費/Entertainment/Leisure	10,000 円/JPY
■その他、補足等/Additional comments :	

■留学のための奨学金の受給有無/Scholarships for study abroad :	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等/Name of the source of the scholarships :	
JASSO	
■受給金額(月額)/Monthly stipend :	
70,000 円	
■受給金額についての補足等/Additional comments about the monthly stipend :	
■奨学金をどのように見つけたか/How did you find the scholarships? :	
大学(本部)からの紹介	

#### 今後の予定について/About your future plans

■留学先で履修した授業科目のうち、単位認定申請をする(予定のもの)/The subjects for which you plan to (are planning to) transfer credit to UTokyo :	
特になし	
■留学前に取得済みの単位数/Number of credits earned at UTokyo BEFORE your study abroad :	
46 単位/credit(s)	
■留学先で取得し、単位認定申請を行う(予定の)単位数/Number of credits earned and (planned to be) transferred to UTokyo :	
0 単位/credit(s)	
■これから本学で取得予定の単位数/Number of (expected) credits to be earned on return :	
30 単位/credit(s)	
■卒業/修了予定/(Expected) year/month of graduation :	
2022 年 3 月	

#### 留学を振り返って/Reflection

■留学の意義、その他所感/Impact of the study abroad experience on yourself or your thoughts :	

非常に限られた期間であったが、インドネシアで生活できたこと自体はいい経験となった。予想外のトラブルに終始直面することになった。そうしたトラブルへの対応力を上げられたかどうかは分からないが、経験できたこと自体が一つの糧になるだろう。自分のインドネシアへの見方が一面的すぎたというのも気付かされた。自分の中では、様々な問題を抱えつつも、多数の人口を抱え、成長著しく、市場としての将来もあるフロンティアというインドネシア像があった。ただ、経済学部の教授は、インドネシア経済には改善すべき点が多い、労働者のスキルが低く生産性も高くない、汚職や腐敗が深刻である、インフラやシステムが未整備であるなど問題点を連ね、日本をある種経済的に先を行く理想的な国と捉える傾向にあるように見受けられた。教授からはつねに日本ではどうなのか、こんな悪い状態ではないだろうとある種誘導されるような形で何度も質問を受けた。自分のインドネシア観を修正できたのはよかった。一方で、十分に現地の学生と交流を積むことができず、彼らがどういう考えを持っているのかということを知ることがあまりできなかった。そのために必要な現地語の習得も不十分なものであった。もっと交流を図らねばならないというところで帰国を余儀なくされる状況となったので、正直、不完全燃焼という感覚は残っている。一方で、途中で帰国することで、そうでなかった場合では得られなかった機会を得られたとも思うので、それを十分に生かしていきたい。

■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響/Impact of the program on your thoughts for a career or job hunting:

海外、とりわけ自分が関心を持っている地域で働くということに関心があったが、それ自体は究極的な目的にはなり得ないと思った。その場で何をしたいか、どんなことを実現させたいかということの方がより重要なのだろう。そうした観点で今後の就職活動を行っていきたいと思う。

■留学による今後のキャリア・就職活動へのメリット・デメリット/Merit/Demerit of studying abroad on your future career/job hunting:

半年ないし1年間、日頃とは異なる環境に身を置いて学習・生活することになるので、就職活動の際に話すネタ・引き出しが増えることは間違いないだろう。もちろん、卒業を1年伸ばさねばならないケースも多いと思うが、デメリットというのはあまり思いつかない。

■留学中に行った就職活動/Job hunting activities during study abroad:

社会人との接点をもつように心がけた。

■進路・就職先(就職希望先)/Career/Occupation (planned):

民間企業

■今後留学を考えている学生へのメッセージ、アドバイス/Any messages or advice for future participants:

先が見えない状況の中で、留学を逡巡している人も多いと思います。自分にそれでも留学をするべきだと言う権利はないでしょうが、後で振り返って後悔しない決断をしていただければなと思います。

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物/Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas:

これまでインドネシア大学に留学された方の体験記